

Heat Budget at the Ground Surface
—Deeper Understanding of a Phenomenon—

Junsei KONDO

Professor emeritus from Tohoku University, Nakazato 49-6, Hiratsuka, 254-0054, Japan

(Received 30 May 2001 ; Accepted 2 July 2001)

極域・寒冷域研究連絡会のご案内

極域・寒冷域研究連絡会より, 2001年秋季大会(岐阜)での開催内容のご案内をいたします。

日時: 2001年10月12日(金) 17:45~2時間程度

場所: 大会B会場(岐阜県民文化ホール未来会館
3階ハイビジョンホール)

話題:

1. 南極第6期観測開始にあたって
「5か年計画の概要と南極へのアクセス方法の新展開」

平沢尚彦(国立極地研究所)

2. GAME/Siberia から見るシベリアの水循環
「GAME/Siberia の概要」
「東シベリア・カラマツ林での熱・水循環の年々変動とカラマツ, アカマツ林での熱収支特性の相違」

太田岳史(名古屋大学生命農学研究科)

- 「1次元モデルによるエネルギー・水交換の推定と考察」

山崎 剛(東北大学大学院理学研究科)

- 「航空機観測から得られた東シベリアの大気境界層構造の季節変動」

檜山哲哉(名古屋大学地球水循環研究センター)

- 「水同位体比から見た東シベリアの水循環」

杉本敦子(京大学生態学研究センター)

はじめに2002年開始の南極第6期観測の計画と, 今年1月にケープタウンー南極大陸間のジェット機によ

る人員輸送に日本も参加したことなど, 今後の新たな観測の可能性を含めて報告していただきます。

今回の特集はシベリアです。GAMEプロジェクトでは広大な凍土の広がるシベリア域での熱・水収支過程を明らかにするために, 1996年から大気-地表面間の熱・水収支観測を行ってきており, 2000年には航空機も導入した集中観測を行いました。今回はタワー観測によって得られた鉛直1次元(プロットスケール)での熱・水収支のプロセス解明とモデルによる考察, 航空機観測によって得られた数10 kmスケールでのフラックス分布と大気境界層の構造, また視点を変えて同位体から見たシベリア域での水循環の特徴について, 最新の研究成果を報告していただきます。

代表: 木村龍治(東京大学海洋研究所)

世話人: 平沢尚彦(国立極地研究所)

中村 尚(東京大学理学部)

浮田甚郎(米国航空宇宙局)

高田久美子(地球フロンティア研究システム)

阿部彩子(東京大学気候システム研究センター)

佐藤 薫(国立極地研究所)

本田明治(地球フロンティア研究システム)

問い合わせ先:

地球フロンティア研究システム 本田明治

Tel: 045-778-5514, Fax: 045-778-5707

E-mail: meiji@jamstec.go.jp